

## 雪国からの挑戦②

市報2月1日号からの連載

小さな雪国の自治体首長が、小泉環境大臣と橋本東京オリンピックパラリンピック担当大臣に面会して何を伝えたかったのか。

多忙な公務日程を割いていただき直接大臣室にお伺いすることは簡単なことではありませんが、思いを書簡にしたため知己の応援も得て実現したものです。お二人に、当市が「世界に雪の力をアピールしたい」と始めた雪の活用プロジェクトへの協力を要請しつつ、さらに「真の目的は産業利用と地方創生につながるため」と強調しました。すでに当市には10棟の大規模な雪室倉庫があり、その産業化は全国のトップレベルで進められていることを紹介し、予見される大規模災害などで電源が喪失しても耐え得る冷蔵施設であり、医薬品の備蓄など国土上のリスク分散にも極めて有効であることや、産業だけでなく公共・民間施設への普及促進は「脱炭素社会の実現」に雪国が参画できる誇りある取り組みとなる、とも。当市は今後も継続して

取り組んでいくが、国の自然エネルギー政策に「雪」の位置付けを引き上げて、モデル事業の創設や地域指定を協働できないものか。その際には南魚沼がその先頭に立ちたいと伝えました。両大臣とも真剣に耳を傾けてくださり、予定時間を超えて異例と思える対話の厚遇をいただけたことに感激しました。

『雪地獄 父祖の地なれば 住み継がり（当市出身の阿部諒村さん作）』昭和13年、大惨事となった十日町市の映画館の屋根崩落事故の犠牲者にささげられたこの句を若いころに知り、つらい除雪作業の折には私も怨嗟の思いを持ちながらつぶやいてきた。

有史以来の苦難を知り、今冬の大雪の疲労の真つただ中にある市民のみなさんからは「雪、雪」と騒ぎ立てるなどお叱りを受けるかもしれないが、私は「ならばこそその雪の活用」であって、ここに住み継ぐ私たちが挑むべきテーマであり、その資格と使命があるのだ、と伝えたいのです。

## 国際大学留学生 お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

シリーズ  
第95回

Bangladesh 人民共和国 ナズニン アクタール さん



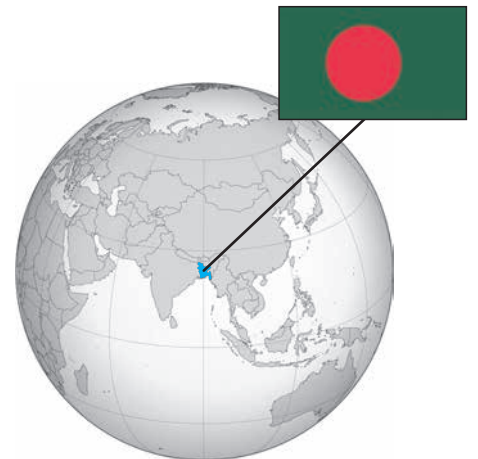
## 私の国はこんなところ

Bangladesh には、夏、雨季、秋、霜季、冬、春の6つの季節があります。季節の多様性が文化を多様にし、年間を通して多くの伝統行事が行われています。観光の街コックスバザールは、世界で最も長いビーチがある美しい街です。国の南部にある世界遺産「シュンドルボン」は、世界最大のマングローブ天然林として知られ、有名なロイヤルベンガルトラのほか、多種の動植物が生息しています。国土は、何百もの川とその支流により形成されていることから「川の国」ともいわれます。

Bangladesh では豊かな自然の中で、生物の多様性を学ぶ体験ができます。

## 南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼は景観美、上質なお米、冬のスポーツなどで有名です。私は、窓越しに四季折々の自然の美しさを感じて過ごすことを楽しんでいきます。夏は緑がまぶしく、秋は色とりどりの紅葉が見られ、冷たい風が気持ちいいです。冬は白い雪が清らかです。そして春には桜の穏やかな景色を眺めながら、南魚沼で過ごす時間を心から大切に思いました。四季を楽しめるこの街で過ごせていることに感謝しています。



## Bangladesh 人民共和国

[公用語] ベンガル語  
[首都] ダッカ  
[面積] 147,000 km<sup>2</sup> (91位)  
[人口] 159,400,000人 (7位)  
[GDP(PPP)] 3,251億ドル (43位)  
[通貨] タカ (BDT)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説(PPP)により算出した数値です